

恵みと真理のニュース



2013年3月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証] 私をお救い頂き、お祈りに答えられ、福音伝播に楽しませて頂いて感謝致します。

<前回に続いて>

その日、私はイエス様を私の救い主として心に迎え入れて生まれ変わったような感激を味わいました。去る5年の間、信じようとしても信じられなかったが、突然信じられてきた恩恵を体験してみると口で言い表わせない喜びと感謝に溢れました。長い間の食もたれがぼんと消えたように心がすっきりとなって気持ちも新しくなりました。初日の素晴らしい感動と喜びが水曜礼拝、金曜礼拝、次の主日礼拝までどんどん私の足を教会に向けて、礼拝を捧げる日を待ち望みました。教会長牧師の説教で恩恵を受けて信仰が深くなるにつれて牧師先生にお会いしたい想いが募っていきました。こんな私の気持ちが伝わったのか感謝すべきことに間もなく教会長牧師がジャンユ聖殿にお見えになって祝福聖会を導いてくださいました。礼拝が終わった後に教会長牧師に挨拶祈禱を受けて牧師先生と奥様と一緒に写真も取ることが出来てもっと嬉しくて楽しかったです。かつて私は退勤して夕方6時以降はほとんど外出をしないで夜9時になると寝につく習慣がありました。しかし、遅い夜の金曜礼拝に出席するために教会に行く時間が誠に楽しい時間になりました。そう変わっていく私の様子が自ら信じられませんでした。前は職場に行けばドラマとか芸能人の話で一日が始まりましたが、今は福音をお伝えすることとなりました。神様の愛の話、私が神様から恵まれて体も心も以前とは変わった話を周りの人々に聞か

せてあげなくてはたまらなくなりました。長く信仰生活をしたものでもないのにこんなに突然考えと生活が変わったのは確か神様からの恵みでなくては説明ができませんでした。そして5年間長老より度毎に少しずつ福音を聴き取ったのも多分大きな役に立ったものと思われまます。長年の憂うつ症、不安、焦燥、恐れなどの症状が消えてから体も健康になって心には喜びと安らぎに溢れるようになりました。薬を飲んでも駄目だったし、趣味と運動にでも解決できなかった病々を神様はすっかり治療して下されました。肯定的な態度と明るい姿で生活できて、あらゆることに感謝できるようになりました。以前好きだった世の中のことが何でそんな一度に嫌になったのか、私の変化に私も驚きました。朝目を覚ますと最初に神様にありがとうございますと申し上げてから一日を始めるようになって、以前とは違って庭園に咲いている花々と樹木が違って見えて美しく感じるこういった全てのことが主イエスに逢った以降、人生のボーナスで頂く祝福のようです。家に帰ってくると息子に、会社にいくと同僚一人一人に私が体験して覚ったことを伝えるのに忙しかったです。信仰生活をしてから間もなく熱情的に福音を伝えていたら周りの同僚たちに急に思われたり、白目で見られたりしました。しかしながら、私と一緒にして私に逢う人々が‘天下より尊い一生’であることを考えると皆が懐かしい顔で、イエス様の愛で愛すべきの対象となりました。私のみこんな福を頂いてはいけない思いがしました。家庭の福音化のために一生懸命お祈りして努めたら、初の結実で3ヶ月目に一人きりの息子が教会に出て主イエス様を心に迎えました。

世界神様の聖会の総会長牧師が我が教会を訪問してご説教頂いた日でした。引き続き伝道のために40日間の計画祈禱を始めました。初めはお祈りが難しくして私個人と家族のためにのみ短くお祈りしていましたが、すればするほどお祈りが楽しみになって国と教会と会社の同僚たちのためにも多くの時間お祈りをしました。伝道の対象となった同僚と家族の名前を一人一人呼びながらお祈りしていたら、哀れみと憐憫で心苦しくなって靈魂救援の使命感で張り切るようになりしました。計画祈禱を始めてから1週間目に息子の友たち5名を伝道して決信させ、会社でも機会を作って熱心に伝道しました。途中であきらめないで持続してお祈りして伝道したところ、神様の役事で計画お祈りが終わる前にもう会社同僚3名と息子の友たち2名を主へ導くことができました。

私は世の中のどんな名誉とも比べられない伝道王という栄誉あるあだ名を必ず得たいです。1次目標で年末までに50名を伝道する計画を立てました。この目標を達成して本干証欄を通じて神様に大きな栄光が捧げられることを希望します。40代半ばになって遅く主イエスを迎えただけにいつか主の前に立つ時に恥ずかしくないようにもっと一生懸命主イエス様に仕えて頑張った福音をお伝えします。私に救いを恵んで下された神様、お言葉の恩恵で恵まれた人生を生きさせる神様、お祈りに答えられる楽しみを下される神様、主の仕事に献身する幸福を味わって暮らせる神様に感謝と賛美と栄光を捧げます。ハレルヤ!



[信仰コラム] 無知と愚かさ

「イエスはその人に言われた。「誰が私を、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」」(ルカ12:13~21)

群衆の中から一人がイエス様に向け、「先生、私にも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」と言いました。彼は自分の父親より相続される財産分配において兄に対し、相当の不満を抱いていたのです。彼は群衆がイエスへ集まることとイエスがパリサイ人と律法士たちを咎めることを見てイエス様が大変な権威があると思いました。そして、イエス様に相続分配の問題を訴えて助けを借りようと試みたのです。こんな唐突な要請は妥当でない行為でした。ところが、とても恵み深く感動的なことは我が主イエスは自ら当面の全ての事件と状況を聖なる知識と知恵を教える機会とされた事実です。この人の要請についてイエス様が答えられ、敷衍して説明されたお言葉に非常に貴重な真理のメッセージがあります。

第一には、「誰が私を、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」といったお話にあります。イエスがその人の無知からの誤解を指摘されました。彼は彼なりにイエス様についての情報を持っていたが、イエス様のことを誤解し

ました。人がイエス様について偏見と間違った先入見を持っているとイエス様を自分なりに理解し、解釈し、判断してしまいます。それでイエス様に向け、この人が言ったことと同様な要求をします。人の持つべきの正しい知識の中でイエス様に対する知識よりもっと重大なことはありません。反面、イエス様についての無知から出る誤解よりもっと悪いことはありません。イエス様をメシアで分かっていないとイエスについて無知の人です。

第二に、「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」というお話に真理があります。欲望の限界基準は分量で定められません。その基準は神様との関係にあります。神様に感謝せず、更に所有できる様に求めて努めること、神様を恨んで不平を鳴らしつつ求めるのが貪欲です。昔イスラエルの民衆が貪欲を抱いて神様に向け愚痴をこぼしたことで神様の懲らしめを受けた事件がその例です。イエス様は「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。」と「有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」と仰いました。所有の大きさが暮らしの価値と質を決めるのではなく、幸福を左右するのでもありません。尚、所有の大きさが永生にまつられません。イエス様は付言して‘愚かな金持ち’を例えて仰いました。

第三に、「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」というお話に真理があります。金持ちは利己主義一辺倒の人生を生きてきました。自分のためにすることが利己主義ではありません。自分のためにのみすることが利己主義なのです。詐欺、欺瞞、横領、人身売買、誘拐、盗み、強盗、殺人との行為は極悪な利己主義者の行為です。隣を度外視し、ひたすら私だけを大事にすることが利己主義です。神様を度外視し、私のことだけを考えることが利己主義です。

神様に対して富裕な人は何を所有していても、その所有が神様に仕える手段とします。所有する全てのものを神様に仕える手段とする人は所有に変化があっても人生の態度や信仰がぐらつきません。この世で所有するとなる全てのものを天国に積んでおく宝物とします。イエスキリストのお名前で行われる善良な事のために持っているものを使用します。主イエスの仕事に努め、復員伝播のために持っているもので献身して奉仕します。聖徒の皆さんの中には、イエスキリストについて無知の人が無いことを望みます。そして、イエスキリストによって永生を得た者らしく、神様に対して富裕に行なって生きていくことを願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

いつも喜んでいなさい

“幸せと言うのは私たちに与えられた時間の大部分を嬉しい考えで過ごす心の状態だ。”という名言があります。ソロモン王は人生に対して結論作りを“人が住む間に喜んで善を行うよりまさることがないのを私がかつた”(傳道書3:12)告げました。しかしつらくて手に負えない状況にある人に“いつも喜んでいなさい。”と言う言葉は有り難く聞こえないだろう。他人の場合には気にしない不人情な音で苦難される人の心に苦痛を加えるようにすると反撥することができます。苦痛して悲しんで歎息することが多い世の中でどんなにいつも喜ぶことができるのか？憂鬱にさせる事情たちを置いてどうしていつも喜ぶことができるのか？苦しめる人がいるにも喜ぶことができるのか？という質問が生ずるようになります。しかし“いつも喜んでいなさい。”は聖書に記録された神様のみ言葉です。これは勤勉の以上であり命令です。神様のみ旨だと言いました。神様は私たちに実践が不可能な命令を下しません。“これはイエスキリストの中にあなただちに向けた神様のみ旨であると。”言いました。いつも喜ぶことができる人が誰なのかを明示しました。イエスキリストにあって人々はいつも喜ぶことができるというみ言葉です。今日の本文には“いつも喜びなさいこれはイエスキリストの中であなただちに向けた神様のみ旨であると”しました“主の中にいつも喜びなさい私がまたいうのに喜んでいなさい”しました。本文のみ言葉は二つの質問を持つようにします。イエスキリストの中でいつも喜ぶことができる理由が何やらするのです。そしてイエスキリスト中にある聖徒ながらいつも喜びなさいというみ言葉どおり行うことができない原因が何でその問題をどんなに解決しようかと言うのです。

先に イエスキリスト中でいつも喜ぶことができる理由が何やらよく見ます。
“キリストの中”と“キリストの外”の差が何やら分かればその答は確かになります。エペソ2章12節に記録されるのを“その時にあなただちはキリストの外にあってイスラエル国の外の人だから約束の口約束たちに対して外人であり世の中で所望がなく神様もない者だったのに”しました。イエスキリストを信じない人々を示して“キリストの外”にあると言いました。キリストとどんな関連がないという意味です。この言葉は恐ろしいね。キリストのよる救いに参詣することができないという意味だからです。“イスラエル国の外の人”と言うのは神様の国民から除かれたことを言います。“約束の口約束たちに対して外人”と言うのは神様が自分の民たちに授けられた福福しい約束たちを全然受けることができないことを言います。“世の中では所望がない者”と言いました。“キリストの外”にある人は神様の前で罪人で神様の濃い震怒が下ると言う事で終局には神様の審判を受けるようになります。その結果は滅亡であり地獄の刑罰に処するようになります。そうするので“キリストの外”にある人には天国に対する所望がないです。

“キリストの中”にある人の実際はどうですか？“私たちがキリストの中で主の恵みの豊かさに付いて主の血によって救贖すなわち罪から赦されたから”(エペソ1:7)しました。すべての人は神様の前で罪人です。そして罪の結果で肉身の死を当たって地獄の刑罰を受けるようになります。しかしイエスキリストを信じればキリストが十字架にくぎつけられた事で血を流した貴重な血によって罪を赦すことを受けて義のあるようになります。義のあるようになった人は天国に入ります。

これが“キリストの中に”あるという意味です。“ですから誰でもキリストの中にあれば新しい被造物だから以前のは過ぎ去ったから見よ新しいものになった”(コリント2の5:17)しました。キリストの中にいる人は新しく造られた存在になります。“神様の約束はいくらでもキリストの中で はい(Yes)になるですからそれによって私たちがアーメンして神様に光栄を捧げるのである”(コリント2の1:20)しました。

聖書に約束された7千余個の貴重な約束たちがキリストの中にある者等のためなのです。“すべての恵みの神様すなわちキリストの中であなただちを招き入れて自分の永遠な光栄に入るようになさったこれがちょっと苦難を受けたあなただちを親しく完全になさりながら固いようにして強いようにして敷地を堅固になさろう”(ペテロ1の5:10)しました。キリストの中にいる人には苦難がただ苦難で終わってしまわないです。苦難を通じて得ることが多くなります。“主が号令と天使のかしらの音と神様のラッパの鳴り響く親しく天から下ってこられるその時キリストにあって死んだ人々がまず最初によみがえりその後私たちが生き残った者も私どもと一緒に雲にあってに引き上げてそらにあって主を迎接するようにならだからそして私たちがいつも主とともにあろう”(テサロニケ4:16)しました。キリストの中にいる人はキリストが再臨なさる時に忽然と変化されるでしょう。死んでも変化された身で復活するでしょう。

イエスキリストを信じる皆さんは“キリストの中に”ある人々です。“キリスト中で”救贖されて罪から赦されて義のあるようになります。新しい被造物である神様のお子さんに産むようになります。天国の所望を含めて貴重な所望で一杯な約束たちを受けた者になりました。世に中で会うどんな苦しみも神様の攝理で有益なのがあるでしょう。キリストの再臨時に復活して変化された身を持つようになるでしょう。このようなものなどがキリストの中にある聖徒たちがいつも喜ぶ理由たちです。だからキリストにあって人はいつも喜ぶのが当然です。

次に、イエスキリストにあって聖徒ながらいつも喜びなさいというみ言葉どおり行うことができない原因が何でその問題をどんなに解決するかに対してよく見ます。

第一、喜びを蠶食する原因たちをほったらかさずに積極的に処理しなければなりません。

失敗や間違いによる自責感や喜びを奪う原因です。失敗や間違いの原因を検討した後それによって得た経験と教訓を鏡と警戒にすると念をおさなければなりません。そんなにすれば自責感で速く脱するようになります。アブラハムの場合を見ましょう。アブラハムのことは妻サラの忠告が神様の口約束に対する信仰に配置されることなのにそのまま収容しました。そして女しもべのハガルを通じてイスマエルを生みました。

アブラハムのことは自分の過ちを悔やんで神様の指示どおりハガルとイスマエルを出しました。この事を警戒と教訓にして後日に独り子エサクを番祭で差し上げなさいという神様の命令を受けた時はサラの意見を問わなかったです。朝早くエサクを連れて道を発ちました。イエス様の弟子たちの場合を見ましょう。イエス様がゲツセマネ園で逮捕して引かれて行く時弟子たち皆が逃げだしました。ペテロはイエス様が審問を受ける大祭司長の家の庭まで付いて行ったが人々の前でイエス様が分からないと三度も否認しました。しかしペテロと十人の弟子たちは自分たちの間違いを鏡と警戒にしました。そして復活した神様にひいては神様の容赦を深く受け入れてこれ以上先日の失敗と間違った事にとらわれすぎなかったです。このように主の中で当然に持たなければならない喜びを蠶食する失敗や過ちがあれば速く悔い改めて喜びを回復しなければなりません。

第二、今日を喜んで今あることによって喜ぶ訓練をしなければなりません。

今日を楽しく暮さない人には楽しい明日が近付かないです。実は私たちが住んでいる日はいつも今日のだけです。だから今日を喜びながら暮らす人がまことによく暮らす人です。今持ったものを喜んで楽しまない人はもっと多いことを所有するようになって楽しむことができません。失ったことを思ってつらがるかかないことを推し量りながら嘆くくせを果敢に投げ捨てなければなりません。

第三、大変でつらい事にあえばその事に心を集中せずに慰労と助けの手を突き出す神様に考えの方向を変えてください。

はじめの創始期の教会七執事にあって一人であるステパノ執事は福音を伝えてからつかまって脅威にあいました。彼は殺気騰騰した公会院たちと群衆たちから目を回して上を眺めました。その時神様の右にいらっしゃるイエス様を見るようになりました。ステパノ執事が言うのを“見よ天が開かれて人の子が神様の右に立ていらっしゃるのを見える”(行7:56)しました。ステパノ執事はその頃も喜びが充満しました。輩らがステパノ執事を眺めたらその顔が天使のようでした。

テサロニケ5章16節に“いつも喜んでいなさい”したし、ピリピ4章4節には“主にあっていつも喜びなさい私がまたいうのに喜びなさい”しました。喜ばなければならないし、再び喜ばなければなりません。喜びの理由たちを再吟味していつも喜ばなければなりません。私たちに“イエスキリストの中で”いつも喜ぶことができる豊かな理由をくださっていつも喜びなさいとおっしゃる極めてありがたい神様に讃嘆を申し上げます。皆さんがイエスキリストを信じたら、イエスキリストの中にいらっしゃったら、いつも喜ぶように願います。